

*Introduction of YAMAGATA University*

平成28年2月現在の

山形大学

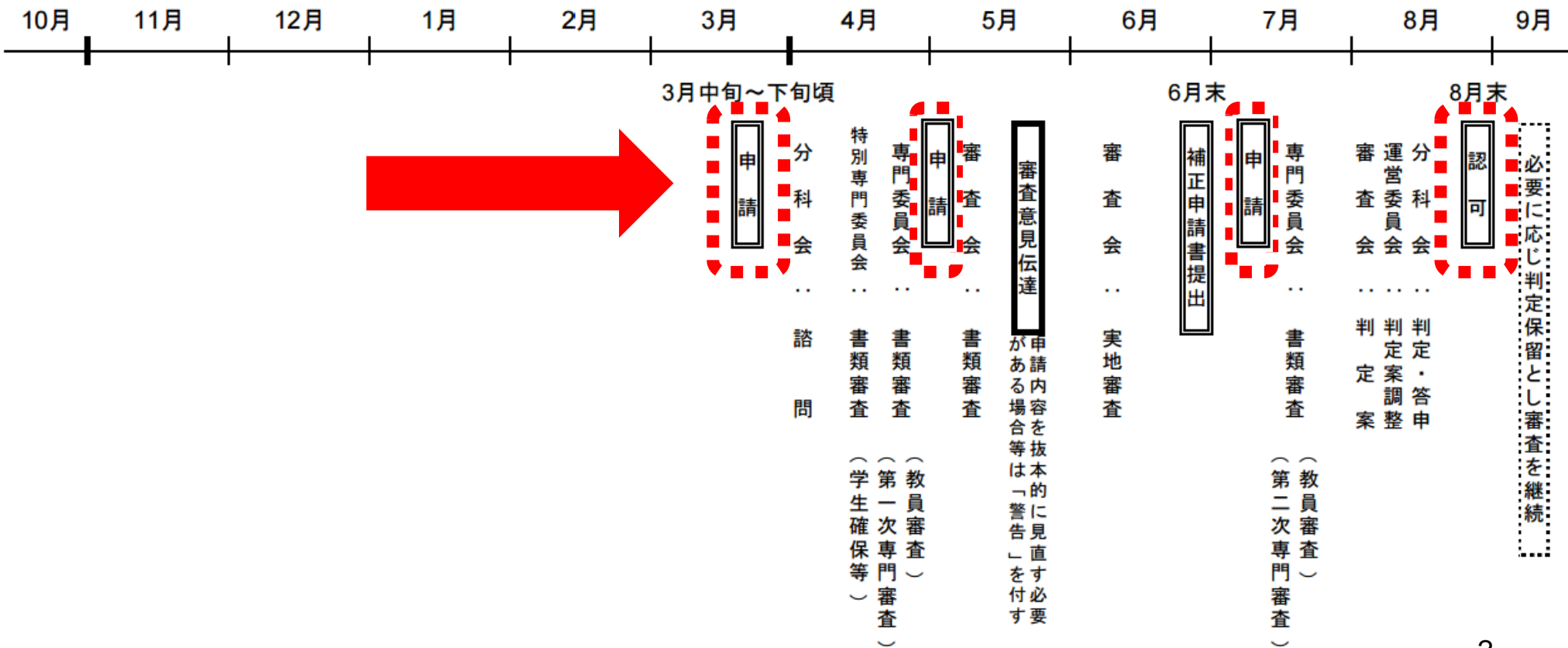
平成29年度教育組織改編の方向

# 大学設置分科会における一般的な審査スケジュール

## 学部の設置

【開設の前々年度】

【開設前年度】



# 山形大学の基本理念

## 学生教育を 中心とする 大学創り

学生が主体的に学ぶ環境を作り、  
学生目線を大切にして学生とともに  
成長する大学を目指す。

一人ひとりの学生にとって最善の教育を



「山形大学で学んで本当に良かった。」  
そう言ってもらえることが  
私たちの願いです。

山形大学長

小山 清人

KOYAMA Kiyohito



## 大学ブランド・イメージ調査2015-2016



**1.** <主催者あいさつ> 13:30~13:35  
小山 清人 (国立大学法人山形大学長)

**2.** <来賓あいさつ> 13:35~13:45  
塩見みづ穂 氏 (文部科学省高等教育局大学振興課長)  
吉村美栄子 氏 (山形県知事)

**3.** <基調講演> 13:50~14:30  
演 題:「東北圏の現状と地方創生(仮題)」  
講 師:海輪 誠 氏 (公益財団法人 東北活性化研究センター会長)

**4.** <山形大学COC・事業の目指すもの・COC事業の成果と課題> 14:45~15:10

**5.** <COC事業に関する学生の事例発表> 15:10~15:30

**6.** <パネルディスカッション> 15:30~16:55  
テーマ:「地方創生と大学の果たす役割(仮題)」  
パネリスト:大山 正延 氏 (株式会社スアテック相談役)  
成沢 優子 氏 (ピーキューブ株式会社代表取締役社長)  
安田 弘法 氏 (山形大学副学長(教育・学生支援・国際交流担当))  
参加自治体代表者  
本学学生  
ファシリテーター:大場 好弘 氏 (山形大学副学長(EM・入試・社会連携担当))

<情報交換会> 17:20~18:30  
場所:ホテルメトロポリタン山形

**地(知)の拠点**

**山形大学 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC)シンポジウム**

**協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業**

**自立分散型(地域)社会システムを構築し、運営する人材の育成**

平成28年 2月9日(火) 13:30~17:00 ◎受付13:00~

**ホテルメトロポリタン山形 4階「霞城」**  
山形県山形市香澄町1丁目1番1号

シンポジウム参加費:無料 情報交換会:3,000円(当日徴収)

お問い合わせ・山形大学COC・COC推進室(上山サテライト)  
お申し込み 電話:023-695-6264 FAX:023-695-6229  
Eメール:cocuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
〒999-3101 山形県上山市金風湯院19-3 山形大学総合研究棟301

### 【東北編】TOP5

1位	東北大学
2位	山形大学
3位	国際教養大学
4位	東北福祉大学
5位	岩手大学

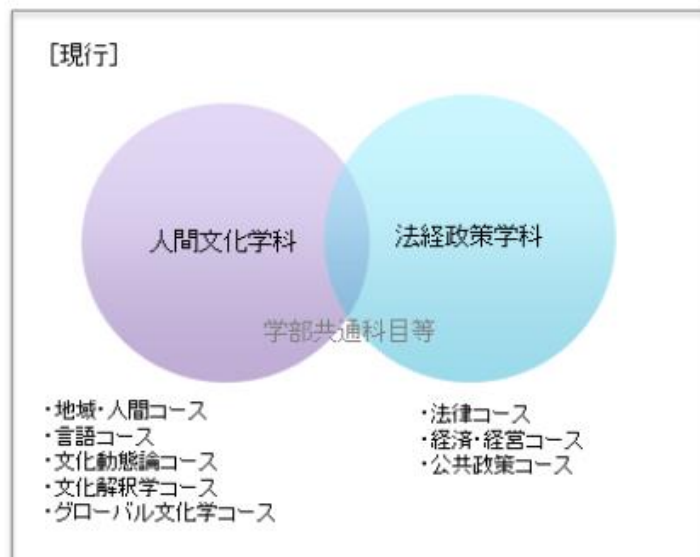
## 山形大学人文学部が「人文社会科学部(仮称)」に生まれ変わります！！

### 人文社会科学部(案)

本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、確定情報ではなく、変更の可能性があります。

専門性を重視しながら、文化や社会科学を幅広く学べる学部になります。  
専門的なことを深く学ぶと同時に、社会人として活躍するための基礎的な力  
(英語、情報・統計・調査能力、実践的課題解決能力)の育成を重視します。

## 2 学科 8 コース制 → 1 学科 5 コース制



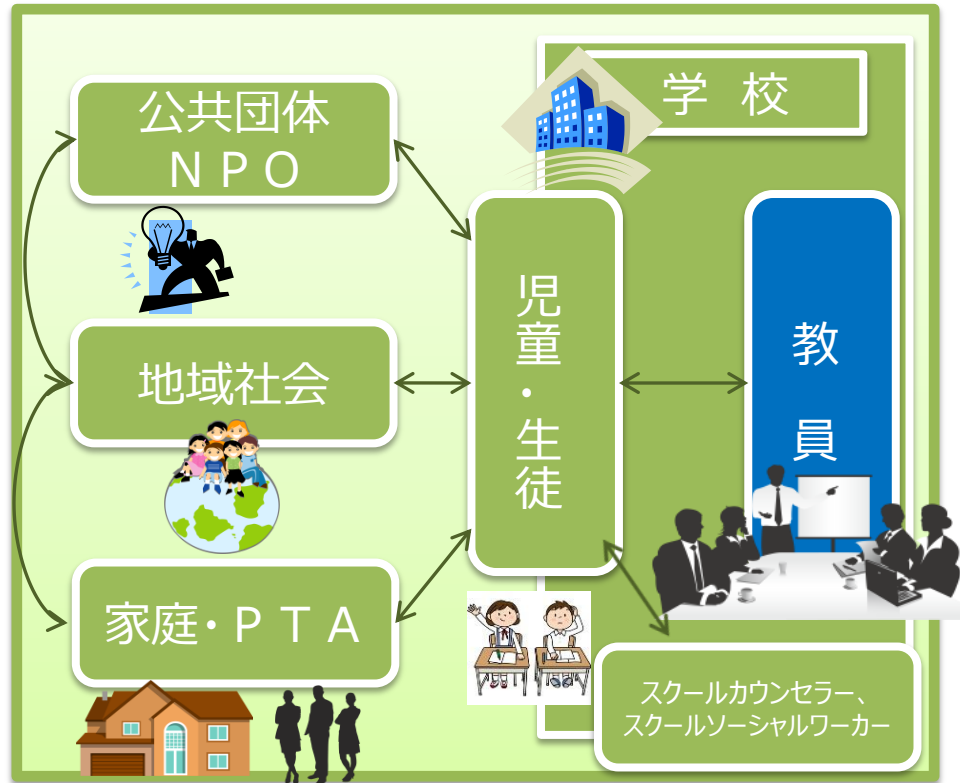
# 新 地域教育文化学部 (案)

<地域貢献・地域創生型学部>

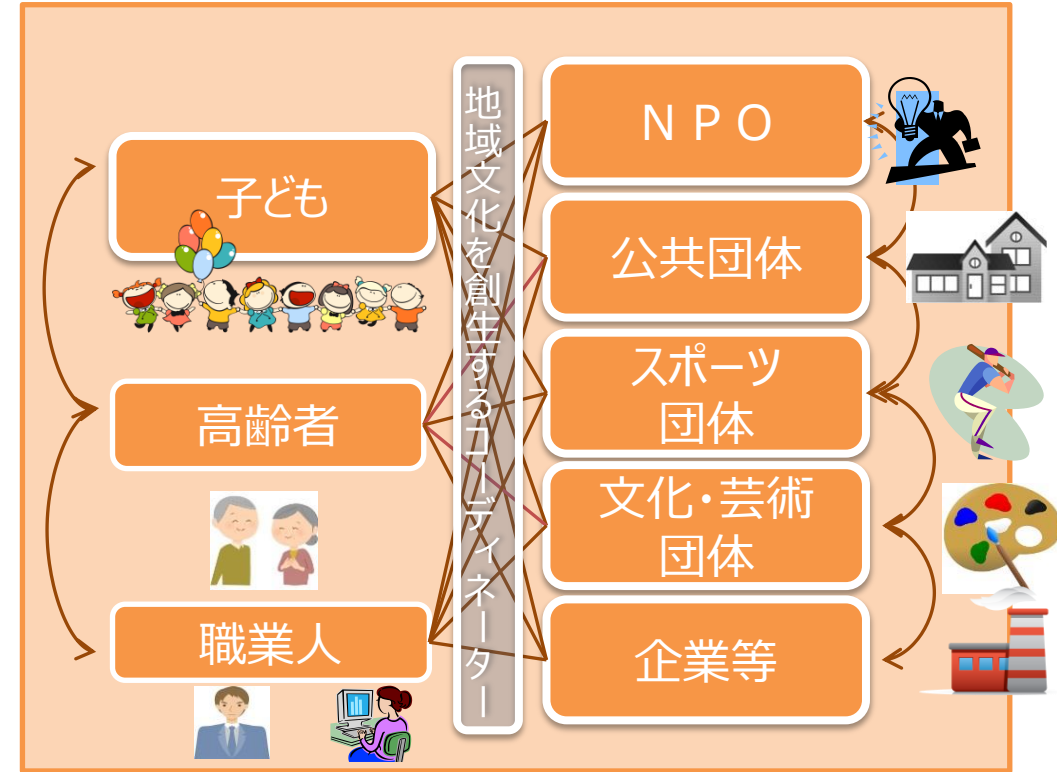
本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、確定情報ではなく、変更の可能性があります。

地域教育 (児童教育コース)

地域文化 (文化創生コース(仮称))



地域ぐるみで子どもの育ちを支える  
ネットワークを作るファシリテーター  
として「チーム学校の一員としての教員」



地域社会が主体的に地域文化を継承し、  
創生するためのネットワークを作る  
コーディネーターとしての人材

地域の「地域とつながる子どもの育成」・「安全かつ安心な生活」・「文化的に豊かな人生」を支え、  
多様な人々を巻き込んで課題解決に取り組む人材の養成

# 新 理学部 (案)

本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、  
確定情報ではなく、変更の可能性があります。

## 【新編成】

## 分野横断による機能強化

理学部 1学科 (210名)  
学士 (理学)

理工学研究科博士前期課程  
修士 (理学)

理学科 6 コース

数学コース

物理学コース

化学コース

生物学コース

地球科学コース

**データサイエンスコース**

理学専攻  
(53)

## 新編成の特徴

### ◆カリキュラム

- ・分野別定員を設けないコース制
- ・キャリアパスを意識した履修プログラム
- ・基礎学力を重視した学部共通教育
- ・基盤力試験、TOEIC等を活用した学部・大学院の6年一貫教育
- ・理工系の研究科に接続できる学部カリキュラム

### ◆新コース

- ・データ解析からイノベーションを創出する「データサイエンスコース」

### ◆入試

- ・動機・探究心を重視した選抜方法
- ・地域からの入学者を増やす多様な選抜方法

## 学修の流れ

学生が目指すゴール (キャリアパス)  
に応じたプログラム

学生が選ぶ  
学習プラン

<b>スタンダード</b> 理学に関する幅広い知識を有する人材
<b>フロンティア</b> 先導的研究・技術開発に携わる人材
<b>サイエンスコミュニケーター</b> 理数教育・科学文化形成を担う人材

×

4年
6年

一括入試・コース選択は入学後

学生自らが多様な興味、能力に応じて専門分野を選択し、  
自らの将来をイメージして学習する教育プログラム

1年	2年	3年	4年	博士前期課程	就職
学部共通教育 分野横断型カリキュラム、基礎 数学、基礎理科実験の必修化	コース選択	コース専門教育	卒業研究	理工学研究科 または他研究科	総合職・一般職・技術職 (製造・金融・流通・情報通信・出版)
			接続型カリキュラム		技術職・研究職 (製造・環境・情報通信・流通・公共サービス)
			卒業研究		教職大学院 他研究科

## 改組の方針

- ① 社会ニーズに対応するため、高度ものづくりの基盤を為す、材料・化学・電子情報・機械系の基盤分野の更なる発展・充実
- ② 本学の特徴である有機系分野の強みを活かす
- ③ 入学者の進路希望と就職先とのマッチング（出口を意識したカリキュラム）
- ④ 学生の多様化に対応するため、学生定員の大きな学科構成にする
- ⑤ IT人材の育成
- ⑥ 工学基盤分野と融合した新しい建築・デザイン分野を導入
- ⑦ 早期の社会と工学の繋がりに係る理解と知識の習得（PBL教育を活用）

本資料は、現在文部科学省との相談中の状況を示したものであり、確定情報ではなく、変更の可能性があります。

## 工学部 600 ※50

### 昼間コース

高分子・有機材料工学科 140

合成化学コース

光・電子材料コース

物性工学コース

化学・バイオ工学科 140

応用化学・化学工学コース

バイオ化学工学コース

情報・エレクトロニクス学科 150

情報・知能コース

電気・電子通信コース

機械システム工学科 140

構造・材料・デザインコース

熱流体・エネルギー工学コース

ロボット・バイオニクスコース

**建築・デザイン学科 30**

### フレックスコース

システム創成工学科 ※50

イノベーションコース

エンジニアリングコース

チャレンジコース